

Lotus 蓮

八王子市立第三・第四・第十・大和田小学校

放課後の子ども教室 囲碁教室だより

70号 2022年7月

編集 成田 滋 shigerunarita@gmail.com

ブログ https://naritas.jp/wp1/

八王子囲碁連盟 https://hachigoren.com



7月の放課後子ども囲碁教室の日程です。

第三小学校:7月7日、14日 毎週木曜日2時30分~ 四階 家庭科室

第四小学校:7月4日、11日 毎週月曜日 2時30分~ 三階 ひらめき教室 第十小学校:7月1日、8日,15日 金曜日2時30分 22日、25日9時30分 一階 家庭科室

大和田小学校:7月6日、13日、20日 毎週水曜日2時30分~ 二階 図書室

(作: 谷川俊太郎 絵: 合田 里美 出版社/岩崎書店) 『ぼく』 ◆童話の紹介

90 歳を迎える詩人・谷川俊太郎が「自死」を想い、「死なないでください」と言葉をつむいだ絵本です。この絵 本は「ぼく」が周囲に語らなかった声、気持ちを分からないながらも聞こうとし、知ろうとする、「ぼく」のこと を考える絵本です。友だちとの時間や麦茶の冷たさ、おにぎりのおいしさに思いをはせる「ぼく」は、死を選ん

だのです。でもきっと生きたかったはずです。「ぼく」がなぜこのような選択をし てしまったのか。どうしたら、生きることができたのか。それを考えることは「ぼ く」がどう生きたかを、そして、どう生きたかったかを考えることです。その問い は「自分自身がどう生きたいか」という問いにもつながります。

谷川俊太郎は言います。「この絵本を読んで、自分のなかに「ぼく」のような気持 ちがある、と感じる人はいるでしょうか。まず最初に、このように伝えさせてくだ さい。死を重々しく考えたくない、かと言って軽々しく考えたくもない、というの が私の立場です。死をめぐる哲学的な言葉、死をめぐる宗教的な言葉、果ては死を めぐる商業的な言葉までが氾濫している現代日本の中で、死をめぐる文と絵による 絵本はどんな形でなら成立するのか、この野心的な企画はそれ自体で、より深く死 を見つめることで、より良く生きる道を探る試みです。」

谷川はさらに語りかけます。「あなたのかかえている思いは、きっとだれにも理解 し、共有することのできない、自分にしかわからないものでしょう。でも、もしか したら、だれかに「自分はこう感じているんだ」と話すだけで、すこし気持ちがか わるかもしれません。とはいえ、それはとても難しいことです。親しければ親しい ほど、自分の孤独や絶望を打ち明けることにためらいを覚えるかもしれませんし、 そもそも、聞いてほしい人なんてまわりにはいないかもしれません。」

「まわりのだれにも話せないというときに、たとえば、国や各自治体が設置してい る相談窓口を利用するという選択肢もあります。「24 時間子ども SOS ダイヤル」 や、「全国いのちの電話」、18歳までの子どものための相談先「チャイルドライン」 など、さまざまな窓口が用意されています。電話をしたり、メールを送るのは勇気 がいることですが、だれにも話せないあなたの思いうや気持ちを伝えてみてくださ را_° ا

私たちのすぐ周りに「ぼく」も「わたし」はいます。「ぼく」はもう一人の自分か 友達かもしれません。どうしたらすべての「ぼく」が、この世界で生きていて良か ったと感じることができるか、、、、、、この絵本を読んでみませんか。



